

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第4区分

【発行日】平成20年3月27日(2008.3.27)

【公表番号】特表2007-521996(P2007-521996A)

【公表日】平成19年8月9日(2007.8.9)

【年通号数】公開・登録公報2007-030

【出願番号】特願2006-553248(P2006-553248)

【国際特許分類】

B 3 2 B	15/09	(2006.01)
C 0 9 D	167/06	(2006.01)
C 0 9 D	5/02	(2006.01)
C 0 9 D	133/00	(2006.01)
B 0 5 D	7/22	(2006.01)
B 6 5 D	23/02	(2006.01)
C 0 9 D	151/00	(2006.01)

【F I】

B 3 2 B	15/08	1 0 4 A
C 0 9 D	167/06	
C 0 9 D	5/02	
C 0 9 D	133/00	
B 0 5 D	7/22	R
B 6 5 D	23/02	Z
C 0 9 D	151/00	

【誤訳訂正書】

【提出日】平成20年2月8日(2008.2.8)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

内面と外面とを有する金属容器を用意すること；

コーティング組成物を用意すること；および、

該容器内面の少なくとも一部に該コーティング組成物を塗布すること、

を含む方法であって、

該コーティング組成物は、少なくとも部分的に中和されたポリエステルアクリラートの水性分散液を含み、ここで、該ポリエステルアクリラートは、ポリエステルと、第二の成分群との反応生成物であり：

該ポリエステルは、第一の成分群の反応生成物であり、該第一の成分群は：

少なくとも2個のカルボキシル基を含む多塩基酸；

少なくとも2個のヒドロキシル基を含む多価アルコール、

を含み、そして

該第二の成分群は：

(メタ)アクリル酸エステル；および、

エチレン性が不飽和の単官能性または多官能性の酸、

を含む、上記方法。

【請求項2】

前記多塩基酸は、テレフタル酸、イソフタル酸、ジメチルテレフタラート、アジピン酸、シクロヘキサンジカルボン酸、または、これらいずれかのいずれかの比率でのいずれかの組み合わせを含む、請求項1に記載の方法。

【請求項3】

前記多価アルコールは、エチレンギリコール、プロピレンギリコール、トリメチロールプロパン、シクロヘキサンジメタノール、または、これらいずれかのいずれかの比率でのいずれかの組み合わせを含む、請求項1または2に記載の方法。

【請求項4】

前記第一の成分群中の多価アルコールの濃度は、第一の成分群の総重量に基づき少なくとも約20重量パーセントである、請求項1～3のいずれかに記載の方法。

【請求項5】

前記第一の成分群は、第二の多塩基酸の無水物をさらに含み、該第二の多塩基酸は、少なくとも2つのカルボキシル基を含む、請求項1～4のいずれかに記載の方法。

【請求項6】

前記無水物は、無水マレイン酸を含む、請求項5に記載の方法。

【請求項7】

前記第二の成分群中の(メタ)アクリル酸エステルの濃度は、第二の成分群の総重量に基づき約40重量%もの低さから約70重量%もの高さまでの範囲である、請求項1～6のいずれかに記載の方法。

【請求項8】

前記(メタ)アクリル酸エステルは、アクリル酸エチルを含む、請求項1～7のいずれかに記載の方法。

【請求項9】

前記エチレン性が不飽和の単官能性または多官能性の酸は、アクリル酸を含む、請求項1～8のいずれかに記載の方法。

【請求項10】

前記コーティング組成物は、移動可能なBPA、および、芳香族グリシジルエーテル化合物を全く含まない、請求項1～9のいずれかに記載の方法。

【請求項11】

内面と外顔とを有する金属容器；および、  
容器内面の少なくとも一部の上にコーティング、  
を含む物品であって、

該コーティングは、少なくとも部分的に中和されたポリエステルアクリラートの水性分散液を含み、ここで、該コーティングは、移動可能なBPA、および、芳香族グリシジルエーテル化合物を実質的に含まない、上記物品。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0006

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0006】

このようなコーティング組成物は、少なくとも2つの方法で、包装された食品または飲料に有害な影響を与える可能性がある。例えば、コーティング組成物の成分が食品または飲料に移り、食品または飲料の風味または味を望ましくなく変更する可能性がある。その他の例として、健康に影響があると認識されているコーティング組成物の成分が、食品または飲料に移る可能性もある。例えば、現在の包装用コーティングの多くは、移動可能な(mobile)または結合された(bound)ビスフェノールA(「BPA」)、芳香族グリシジルエーテル化合物、または、PVC化合物を含む。これまで得られた科学的な証拠を比較考量すると、現存のコーティングから放出され得るこれらの化合物は、ごくわずかならば人間にとて全く危険ではないことが示されるが、それにもかかわらず、これらの化合物は

、ある人々にとっては、人間の健康にとって有害となる可能性があると認識されている。その結果として、食品と接触するコーティングからこれらの化合物を除去したいという強い要望がある。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0016

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0016】

その他の実施形態において、本発明は、(1)内面と外顔とを有する金属容器、および、(2)容器内面の少なくとも一部にコーティングを含む物品に関する。この実施形態において、該コーティングは、少なくとも部分的に中和されたポリエステルアクリラートの水性分散液を含み、ここで、該コーティングは、移動可能なBPA、および、芳香族グリシジルエーテル化合物を実質的に含まない。

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0020

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0020】

定義

本明細書において、本発明の組成物が、特定の移動可能な化合物を「実質的に含まない」と述べられている場合、この用語「実質的に含まない」の使用は、述べられた組成物は、述べられた組成物100万重量部(ppm)あたり、列挙された移動可能な化合物を100重量部未満で含むことを意味する。本明細書において、本発明の組成物が、特定の移動可能な化合物を「本質的に含まない」と述べられている場合、この用語「本質的に含まない」の使用は、述べられた組成物は、述べられた組成物100万重量部(ppm)あたり、列挙された移動可能な化合物を100重量部未満で含むことを意味する。本明細書において、本発明の組成物が、特定の移動可能な化合物を「本質的に全く含まない」と述べられている場合、この用語「本質的に全く含まない」の使用は、述べられた組成物は、述べられた組成物100万重量部あたり、列挙された移動可能な化合物を5重量部未満で含むことを意味する。本明細書において、本発明の組成物は、特定の移動可能な化合物を「全く含まない」と述べられている場合、この用語「全く含まない」の使用は、述べられた組成物は、述べられた組成物の十億重量部あたり、列挙された移動可能な化合物を20重量部未満で含むことを意味する。

【誤訳訂正5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0021

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0021】

本明細書において、硬化コーティング中に存在する特定の化合物が「移動可能な」と述べられている場合、この用語「移動可能な」の使用は、硬化コーティング(典型的には、基板表面への~1mg/cm<sup>2</sup>の塗布)を、エタノールの10重量パーセント水溶液に121で2時間晒し、続いて、エタノール水溶液中で硬化コーティングを49で10日間晒した場合に、この硬化コーティングから上記化合物を抽出することができることを意味する。

【誤訳訂正6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0022

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0022】

上述の成句（実質的に含まない、本質的に含まない、本質的に全く含まない、全く含まない）が、本発明の特定の組成物に関して、用語「移動可能な」以外の特定の化合物に用いられる場合（例えば、「XYZ化合物を実質的に含まない」）、その特定の組成物は、示された化合物を上述の量（それぞれ上述の成句に関連する量）未満で含む（上記化合物が硬化コーティングの成分に結合しているかどうかに関わらず）。

【誤訳訂正7】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0030

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0030】

好みしいコーティング組成物および水性分散液は、移動可能なBPA、および、芳香族グリシジルエーテル化合物（例えば、BADGE、BFDGE、および、エポキシノボラック（novelac））を実質的に含まず、より好みしくは、これらの化合物を本質的に含まず、さらにより好みしくは、これらの化合物を本質的に全く含まず、最も好みしくは、これらの化合物を全く含まない。本コーティング組成物および水性分散液はまた、好みしくは、結合型BPA、および、芳香族グリシジルエーテル化合物を実質的に含まず、より好みしくは、これらの化合物を本質的に含まず、最も好みしくは、これらの化合物を本質的に全く含まず、最適には、これらの化合物を全く含まない。